

「ふくろう星雲」(M97) は、北斗七星の「柄杓の底」の部分にあります。太陽系からの距離は約 1800 光年です。「惑星状星雲」の一つですが、観望や撮影が難しい星雲の一つです。「ふくろう星雲」の名の通り、大口径の望遠鏡での目視観測や、高度な観測機材を使うと、2か所の暗い部分が眼になり、星雲全体がフクロウの顔のように見えるのです。

10月や11月中は、北斗七星が昇ってくるの夜遅くまで待たねば撮影できませんでしたが、12月中旬になると、夜9時ぐらいには地平高度が15度ぐらいになり、撮影が可能になります。通常の機材では撮影が難しかったこの星雲も、天体写真儀「Seestar」では、撮影が可能でした。ただこの日は、北の空に薄雲がかかり、観測地には小雪も舞っていました。撮影条件としては最低でしたが、それでも何とか「ふくろうの顔」に見える写真が撮れました。もう一度、快晴の晩に撮影してみたい星雲です。

(2024年12月中旬／北軽井沢／Seestarで撮影)

